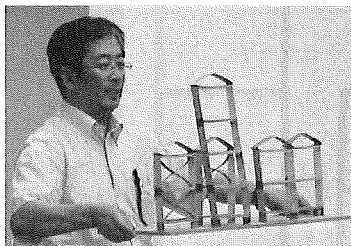


市民への防災意識の普及啓発



福和 伸夫

名古屋大学大学院環境学研究所教授

この原稿は、6月14日に、名古屋と鳥取を往復する車中で書いた。当日は、本特集でも登場する鳥取県建築士会の山崎倫子さんに頼まれて、青年・女性建築士の集い中四国ブロック鳥取大会に出かけた。大会のテーマは「今、私たちに できること …地域防災と建築士…」であった。本特集の意図と重なる大会であった。

私は、8時35分名古屋発の「のぞみ」に乗った。乗車してしばらく経ったところで携帯が鳴った。緊急地震速報だった。岩手での地震で、第一報はM5.7、震度5弱であったが、第四報で震度6強になった。正体はM7.2の岩手・宮城内陸地震だった。のぞみ車中ではテレビが見えないため、e-mobileを使ってインターネット情報を漁った。午後の基調講演で、地震の速報をお伝えしたいと思い、気象庁や地震調査研究推進本部、防災科学技術研究所、マスメディアのホームページなどをチェックした。

講演では、四川大地震や岩手・宮城内陸地震の被害を、東海・東南海・南海地震の被害と対比して説明した。そして、南海トラフでの地震や首都直下地震で、わが国社会を破綻させないために、徹底的な耐震化の必要性和、国民一人一人を耐震化行動に誘導するための建築士の役割について訴えた。

中四国地区は、耐震化が遅れ気味の地域である。建築士自らが自宅の家具固定を実践し範を示すことができないければ、住民の信頼を得られず、地域防災を牽引することは難しい。しかし、会場にいた建築士の多くは家具固定をしていなかった。そんな中で、鳥取県建築士会の取り組みは光っていた。小中学校の耐震化率は9県の中ではトップ（全国では20位だが……）、この1年間、積極的に地域防災活動に取り組み、その成果をふんだんに盛り込んだ集いを開催させた。大会では、3つのワークショップが催され、各県の取り組み成果の発表会、DIG（災害図上訓練）の実践、簡易応急危険度判定の実践なども行われていた。

こういった先進的な活動は、全国で徐々に始まりつつある。この特集で登場する活動団体の事例は、いずれも特徴ある地域防災活動の先進事例である。これらを参考に、各地域で、地域特性に応じた取り組みがされることが望まれる。

地震は待つてはくれない。1993年の釧路沖地震以降、地震が続発している。1994年北海道東方沖、三陸はるか沖、1995年兵庫県南部、2000年鳥取県西部、2001年芸予、2003年宮城県北部、十勝沖、2004年東海道沖、中越、2005年福岡県西方沖、2006年能登半島、中越沖、そして2007年岩手・宮城内陸地震、と続く。それまでの45年間とは随分様子が異なる。

しかし、大正末期から戦後にかけても同様に地震が続発していた。そしてわが国の歴史が大きく動いた。1923年関東地震をきっかけに、1925年北但馬、1927年北丹後、1930年北伊豆、1933年三陸沖、1936年宮城県沖、1941年日向灘、1943年鳥取、1944年東南海、1945年三河、1946年南海、1948年福井地震と大地震が続いた。関東地震が治安維持法の制定や金融恐慌の原因であることを知る人は多い。その後、戦争をはじめ、戦争に負けた。

今世紀前半にわが国が遭遇すると思われる東海・東南海・南海地震、首都直下地震の被害は、死者数万人、全壊・全焼家屋200万棟、経済被害200兆円に及ぶといわれる。日本人の4,000人に一人が犠牲になり、全国の建物の5%を失い、経済被害はGPDの4割にも達する。この被害は兵庫県南部地震の十倍以上であり、まさに国難である。被害量は四川大地震と同等であるが、四川の地震の場合には、国が大きいので死者は国民15,000人に一人、経済被害はGDPの1%以下である。国のダメージは比較にならない。このような被害を出せば、国際社会や次世代に対して取り返しのつかないことになる。国民全員が早くこのことに気づき抜本的な被害軽減を図るしかない。その対策の根幹は、個人の耐震対策にある。

これを進めるには、地域防災活動を活性化させ、住民一人一人が現状の危うさに気づき、地震災害をわがことと考え、耐震化や家具固定などの実際の行動に移すしかない。その際に、私たち建築士の役割は大きい。地域防災を進めるには、ヒト・コト・モノ・カネの四要素が大事になる。市民を啓発し良き相談相手となる防災リーダーや耐震化アドバイザーの育成、地域防災を推進する組織作り、啓発するための道具や教材作り、地域防災活動への助成などである。こういった環境を作ることによって、地域での自発的な防災活動を誘導したい。そして、建築士は良き応援団として、あるいは率先市民としてこういった活動に参画することが望まれる。今こそ、建築士会が社会の先頭に立って安全なまち作りに貢献するときである。